様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：３４４１９
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２２３３

研究課題名（和文）宝珠院所蔵資料調査を基盤とした寺社圏の研究

研究課題名（英文）Research for area of temples and shrines besed on materials possesed by Hoshuin

研究代表者
藤巻　和宏（FUJIMAKI, Kazuhiro）

近畿大学・文芸学部・教授

研究者番号：００４６８８７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、大阪府大阪市北区に所在する宝珠院（菅原山天満寺宝珠院）という真言宗寺院の所蔵資料調査に基づくものである。宝珠院は、かつて大阪市教育委員会による仏像調査がなされたが、その対象とならなかった典籍・文書・絵画等を主たる対象としている。この4年間で一通りの調査を終え、データの点検作業に取りかかっている段階である。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の意義は、未整理ゆえ“死蔵”状態にある宝珠院所蔵資料を、将来的な文化財保存をも見通しつつ調査・整理・分析・紹介することにより、研究資源の整備と提供をおこなうことを主眼とする。それに加え、宝珠院を起点とする中世から近代に至る諸寺社・人物のネットワーク（寺社圏）が明らかとなり、また、如意宝珠信仰・弘法大師信仰・天神信仰といった、個別の寺院や地域を越えた思想史的研究や、所蔵される仏書以外の諸資料や文化人との交流から、文化史的研究に資する成果が期待できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to research materials (documents and pictures) possessed by Hoshuin, a Shingon temple located in Kita Ward, Osaka City, Osaka Prefecture in Japan. Board of Education of Osaka City had already conducted a research of cultural properties of Hoshuin before, however it targeted primarily at statues of Buddha, and specific researches have almost never been conducted on documents and pictures. For the last four years, I have researched documents and pictures, by recording related data all, and began inspection operation of data.

研究分野：日本文学

キーワード：日本文学　書誌学・文献学　仏教学　美術史　日本史　日本思想史　寺院資料　文化財保存

１．研究開始当初の背景

宝珠院は、現在は真言宗御室派に所属する寺院であり、また、かつて大坂天満宮の神宮寺であったと推定されている。近世に作成された縁起には、空海（774-835）により建立され、菅原道真（845-903）とも関係があったと記されるが、草創期の詳細を伝える資料はない。中世以降は、鎌倉・室町・江戸時代の仏像も残るものの、寺院の実態的な側面については、資料から断片的に、応永三年（1396）に摂津国豊嶋郡と大和国添下郡を寺領として寄進されたことや、山科言経（1543-1611）・古田織部（1544-1615）・藤原惺窩（1561-1619）ら文化人との交流などが指摘されるにとどまっていた。

日本史学・日本語学・日本文学研究者による各地の寺院調査を通じ、現在、寺院資料の悉皆調査の重要性が注目されている。個別寺院の膨大な所蔵資料を整理・紹介すること自体、大きな成果といえるが、一方で、こうした調査・研究が前近代の知識体系を明らかにする有効な手段として認識されてもいる。そうした動向の中で、私は先に採択された挑戦的萌芽研究「宝珠院所蔵資料の基礎的研究」に引き続き、本研究課題でも宝珠院の調査を継続し、かつ、「寺社圏」という新たな枠組みのもとでの研究を目指している。

２．研究の目的

本研究は、まずは未整理の文献・絵画に仮の整理番号を付けながら簡易目録を作成し、所蔵資料の全体像を見渡せる状態にすることを目指す。その作業を経た後、改めて詳細な書誌データを記録し、検討しながら、整理番号を確定する。また、資料群の通時的な動態を把握しやすくするために、書写者や伝来に関する各種情報を盛り込んだデータベースを構築する。

未整理で、いわば“死蔵”状態にある宝珠院所蔵資料を、将来的な文化財保存をも見通しつつ調査・整理・分析・紹介することにより、研究資源の整備と提供をおこなうことが可能となる。それに加え、宝珠院を起点として浮かび上がる中世から近代に至る諸寺社・人物のネットワークが明らかとなり、また、如意宝珠信仰・弘法大師信仰・天神信仰といった、個別の寺院や地域を越えた思想史的研究に資する成果も期待できる。

現在、各地でおこなわれている寺院の悉皆調査のうち、日本文学研究者が関わるものとして、如来寺（福島県）・真福寺（愛知県）・勧修寺（京都府）・金剛寺（大阪府）・善通寺（香川県）…等の調査があり、所蔵される文献資料全体を対象とすることにより、個別の資料を対象とする調査とは異なる成果が期待できる。これは、単に調査対象となる資料の点数が多いということだけでなく、資料群を一つの集合体として捉え、かつ、書写・校合・貸借・伝授…といった行為から資料群の動態（蔵書の形成と変容）を通時的に把握することにより、関係する人物・諸寺院の知識体系をも闡明することが可能となるからである。これはきわめて重要な視角であり、こうしたスタンスによる調査対象寺院の拡大は、日本文学のみならず、多分野の研究に大きな成果をもたらすことになろう。

本研究課題である宝珠院調査はこうした研究動向の一翼を担うことになり、また、大阪市内の寺院としては稀有な例となる空襲を免れた資料の多さ（文献資料約 10,000 点、絵画約 100 点、ほかに仏像、仏具、茶器、版木等）を誇る寺院を調査することは、それ自体が非常に意義深い研究である。それに加えて宝珠院の特色を述べるならば、真言宗寺院に期待できる一般的な事項（密教関係資料の存在・密教諸流派の伝授・弘法大師信仰…等）のほか、（１）寺院名にもなっている宝珠＝如意宝珠信仰、（２）大坂天満宮との関係・天神信仰、（３）和歌・物語・天文・兵法・茶道・儒学・神道…等、仏書以外の資料の存在、（４）山科言経・古田織部・藤原惺窩ら著名な文化人との交流…等、いくつかの要素を挙げることができる。本研究は、こうした点にも注意を払いながら進めてゆくことで、悉皆調査との相乗効果をもたらすものと思われる。

３．研究の方法

本研究の基礎的作業は、資料の整理と書誌記録である。研究協力者とともに毎月１回１～２日程度のペースで調査をおこない、整理番号を付しながら書誌情報を記録した。通常期間は関西在住のメンバーが中心であったが、８月と３月は東京・九州のメンバーも含め３日間の調査をおこなった。

研究協力者として、私が主宰する寺社資料調査研究会メンバーに参加を依頼した。文献資料は、藤巻および柏原康人（大阪大谷大学非常勤講師）・橋本正俊（摂南大学教授）・花川真子（京都大学大学院生）・浜畑圭吾（高野山大学助教）・吉田唯（近畿大学非常勤講師）の計６人で通常期間の調査を進め、８月・３月は、植田麦（明治大学准教授）・神津武男（早稲田大学演劇博物館）・森誠子（九州産業大学准教授）らも加わった。データ整理は近畿大学学部生・大学院生に依頼し、目録の作成を進めた。絵画資料は古川攝一（大和文華館学芸員）を中心に、仏像は小野佳代（東海学園大学准教授）・高橋寛（一級建築士）に協力を求めた。

調査は、藤巻がこれまでにおこなってきた調査の方法を踏襲する一方で、宝珠院特有の状況を勘案しつつ、以下のような方法で進めた。

（Ａ）これまでの調査で、等空・高照・定照・智照・恵月という五人の僧の存在が浮上した。18～19 世紀の住職であるが、彼らは多くの寺院で典籍を丁寧に書写・校合しており、書写奥書の情報量も大きい。宝珠院の蔵書形成を考察するに際し、暫定的にこの五人を基点として進める。

（B）文献が収納される木箱は、これ自体も豊富な情報（文字・貼紙・形態）を有している。破損しているものは修復しつつ、可能な限り保存に努め、同時に、情報を詳細に記録する。
（C）日本文学研究者による寺院調査は文献資料に偏重しがちであるが、本研究では文献のみならず絵画・仏像・仏具・茶器・版木等も調査対象とし、寺院に伝来し集積された文化遺産を総体的に把握することを目指す。
（D）藤巻がこれまでに調査してきた随心院・成田山仏教図書館・神奈川県立金沢文庫・高野山大学図書館…等での密教関係資料の調査成果を、他寺院や密教諸流派との関わりを検討する際の情報として利用する。

４．研究成果

４年間の調査で、対象としたものすべての書誌記録を取り終えた。しかし、前回の科研（３年間）とそれ以前の予備調査（１年間）を併せ都合８年にわたる調査で、研究協力者の入れ替わりや記録者による精粗の差もあり、書誌記録やデータ入力の方針も変化していった。また、当初は所蔵資料の全体像を概観するため簡易目録の作成を急ぎ、写真撮影なしで書誌記録を進めていたが、書誌記録を複数の目で点検するための写真が必要であると判断し、途中から資料の部分撮影をするようになった。そのため、目録作成のためのデータの入念な点検作業が必要となり、その過程で現物確認や再撮影の必要も生じた。結局、研究期間を１年延長しても点検作業が終わらず、目録は未完成であった。点検作業の継続と目録の完成、そしてそれに基づく詳細な研究は、次の採択課題にて着手したい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計６件）
①藤巻和宏、「これからの学問と科研費―科研費審査システム改革 2018・再論―」、『リポート笠間』、査読無、63 号、2017 年、17-21 ページ
②藤巻和宏、「科研調査報告　目録作成に向けて」、『宝珠院便り』、査読無、2017 年
③藤巻和宏、「「科研費審査システム改革 2018」をめぐる雑感」、『リポート笠間』、査読無、61 号、2016 年、65-69 ページ
④藤巻和宏、「科研調査報告　第一次調査の終了」、『宝珠院便り』、査読無、11 号、2016 年、2 ページ
⑤藤巻和宏、「宝蔵調査の進捗状況」、『宝珠院便り』、査読無、10 号、2015 年、1 ページ
⑥藤巻和宏、「東西宗教における〈異端〉」、『仏教文学』、査読無、40 号、2015 年、95-98 ページ

〔学会発表〕（計 11 件）
①藤巻和宏、「菅原山天満寺宝珠院」（ポスターセッション）、第 2 回・日本宗教文献調査学合同研究集会、2018 年
②藤巻和宏、「「文学」分野からのコメント」、第 2 回全分野結集型シンポジウム「学会って意味なくない？」、2018 年
③藤巻和宏、「「神話」の「誕生」―「近代」と神話学」について―「縁起」「近代学問」研究の立場から「神話」研究の可能性を考える―」（発議者）、『「神話」を近現代に問う』（勉誠出版、2018 年）合評会、2018 年
④藤巻和宏、「『御遺告七箇大事』の新出写本について」、寺社縁起研究会・関東支部・第 118 回例会、2018 年
⑤藤巻和宏、「近畿大学中央図書館所蔵の真言密教関係典籍類について」、伝承文学研究会・第 448 回東京例会、2018 年
⑥藤巻和宏、「「文学」分野からのコメント」、全分野結集型シンポジウム「学問の世界 The academic world」、2018 年
⑦藤巻和宏、「霊験寺院の書物と言説―西国三十三所霊場を中心に―」（ディスカッサント）、公開研究会「霊験寺院の書物と言説―西国三十三所霊場を中心に―」、2017 年
⑧藤巻和宏、「菅原山天満寺宝珠院」（ポスターセッション）、第１回・日本宗教文献調査学合同研究集会、2017 年
⑨藤巻和宏、「高野山縁起と如意宝珠」（パネリスト）、和歌山大学紀州経済史文化史研究所公開シンポジウム「紀州地域の寺社縁起」、2016 年
⑩藤巻和宏、「神話研究の範囲と対象を「神話学」の起源から再考する」（コメンテーター）、「近代『神話学』の発展と『神話』概念拡大の思想的背景の解明」プロジェクト・第 2 回研究会、2016 年
⑪佐伯真一・藤巻和宏・舩田淳一・牧野淳司、「紀州地域と寺院資料・聖教―延慶本『平家物語』の周縁―」（ディスカッサント）、第１回・日本語の歴史的典籍国際研究集会プログラム、2015 年

〔図書〕（計６件）
①植朗子・南郷晃子・清川祥恵編、勉誠出版、『「神話」を近現代に問う』、2018 年、全 256 ペ

ージ、藤巻和宏「初発としての「神話」―日本文学史の政治性―」（169-183 ページ）を執筆
②堤邦彦・鈴木堅弘編、三弥井書店、『俗化する宗教表象と明治時代―縁起・絵伝・怪異―』、2018 年、全 316 ページ、藤巻和宏「明治期の長谷寺鳥瞰図―炎上・再建と縁起言説―」（217-238 ページ）を執筆
③藤巻和宏、平凡社、『聖なる珠の物語―空海・聖地・如意宝珠―』、2017 年、全 120 ページ
④大橋直義編、勉誠出版、『根来寺と延慶本『平家物語』―紀州地域の寺院空間と書物・言説―』、2017 年、全 248 ページ、藤巻和宏「頼瑜と如意宝珠」（128-139 ページ）を執筆
⑤松田浩・上原作和・佐谷眞木人・佐伯孝弘編、勉誠出版、『古典文学の常識を疑う』、2017 年、全 240 ページ、藤巻和宏「中世が無常の時代というのは本当か」（114-117 ページ）を執筆
⑥松尾葦江編、笠間書院、『ともに読む古典　中世文学編』、2017 年、全 336 ページ、藤巻和宏「古典教育と宗教思想―中世は「宗教の時代」なのか？―」（249-268 ページ）を執筆

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
①藤巻和宏、「全分野結集型シンポジウム「学問の世界 The academic world」参加報告」、文学通信ウェブサイト、2018 年
https://bungaku-report.com/blog/2018/04/-the-academic-world.html

６．研究組織

(1)研究分担者
なし

(2)研究協力者
研究協力者氏名：植田　麦
ローマ字氏名：UEDA, baku

研究協力者氏名：小野　佳代
ローマ字氏名：ONO, kayo

研究協力者氏名：柏原　康人
ローマ字氏名：KASHIWABARA, yasuto

研究協力者氏名：神津　武男
ローマ字氏名：KOZU, takeo

研究協力者氏名：高橋　寛
ローマ字氏名：TAKAHASHI, hiroshi

研究協力者氏名：橋本　正俊

ローマ字氏名：HASHIMOTO, masatoshi

研究協力者氏名：花川　真子
ローマ字氏名：HANAKAWA, masako

研究協力者氏名：浜畑　圭吾
ローマ字氏名：HAMAHATA, keigo

研究協力者氏名：古川　攝一
ローマ字氏名：FURUKAWA, shoichi

研究協力者氏名：森　誠子
ローマ字氏名：MORI, satoko

研究協力者氏名：吉田　唯
ローマ字氏名：YOSHIDA, yui

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。